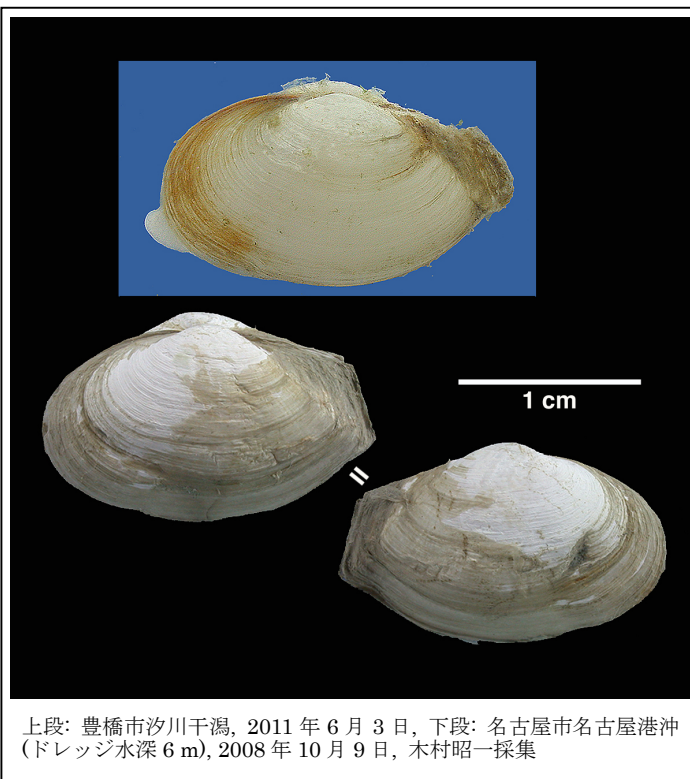


ヒメマスオガイ *Cryptomya busoensis* Yokoyama

【選定理由】

本種は、内湾から湾口部にかけての干潟から潮下帯の砂泥底に生息する。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、本種も三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖 (木村, 1996: 木村, 2000)、蒲郡市三谷地先人工干潟 (木村, 2004) で死殻が少数採集されたが、生貝が確認されていなかった。その後 2008 年に名古屋港沖で生貝が少数採集され (木村, 2010)、2010 年頃から汐川干潟でも生貝が確認できるようになり、近年の三河湾内の調査では、沖島 (早瀬・他, 2015a)、日間賀島 (早瀬・他, 2019) において生貝が確認されている。明らかな回復状況が確認されたので、前回 (CR) よりランクダウンするべき種と評価された。



【形態】

殻長約 20 mm で、殻は卵形で膨らみはやや強い。殻は白色で薄く脆い。殻の後端は裁断状で開く。

【分布の概要】

【県内の分布】

1990 から 2005 年頃まで生貝が確認できなかったが、近年伊勢湾、三河湾で生貝が採集されるようになった。しかし、依然として生息地、個体数は非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、国内では北海道～九州まで分布する (木村, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟から潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

本種はレッドデータブックなごや 2004 (木村, 2004) では名古屋港沖の本種の生貝標本が図示されたが、レッドデータブックなごや 2015 (木村 加筆 川瀬, 2015) では中部更新統の化石標本が図示された。その地で採集された貝類の画像はレッドデータブックの重要な資料 (データ) の一つなので、他産地の標本はなるべく使用しないことが望ましい。ましてや、図示された化石は現生の生貝とは形態が異なるので掲載するべきではない。

【引用文献】

- 早瀬善正・木村昭一・大貫貴清, 2015. 沖島 (三河湾) の転石地潮間帯の貝類相. かきつばた, (40): 23-30.
早瀬善正・木村昭一・西 浩孝・守谷茂樹・岩田明久, 2019. 日間賀島 (三河湾) の潮間帯貝類相. かきつばた, (44): 1-15.
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.
木村昭一, 2004. 蒲郡市三谷町人工干潟の貝類相. かきつばた, (30): 14-20.
木村昭一, 2010. ヒメマスオ, p. 201.in: レッドデータブックなごや 2010 (2004 年版補遺), 316pp.名古屋環境局.
木村昭一, 2012. ヒメマスオ, p. 166.in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
木村昭一 加筆 川瀬基弘, 2015. ヒメマスオ, p. 415.in: レッドデータブックなごや 2015 動物編, 503pp.名古屋環境局. (木村昭一)